

川上橋の橋台背面土の流出に関する調査メモ

2016年9月1日

作成者 宮森保紀

調査者：北見工業大学 社会環境工学科 宮森保紀

調査日：2016年9月1日（木）

調査箇所：川上橋（北見市留辺蘂町川北）（43°45'12.91"N 143°27'48.34"E）

無加川左岸の丘陵地域で22号沢川に架かる川上橋の橋台背面土の流出状況を調査した。

1. 橋梁の概要

竣工：1987年（昭和62年）

上部構造形式：単径間鋼単純桁橋

下部構造形式：A1, A2 橋台：未確認

橋長：未確認

適用示方書：未確認

2. 被害状況

右岸 A2 橋台背面の土砂が下流側に流出した。

本橋は丘陵地域の沢地形に架かる橋で、桁下はやや深い沢になっており、調査時の沢の水量はそれほど多くはなかった。周辺は畑地で前後の取り付け道路は橋に向けて下ってきており、降雨時の雨水は橋梁に向けて集まりやすい。このため、雨水が沢に流れ込む際に橋台背面土も流出したものと推測される。

橋面上から観察した限りでは橋梁本体には特別な損傷は見受けられなかった。



写真-1 橋名板



写真-2 左岸（A1）から右岸側（A2）を望む



写真-3 A2 橋台背面土の流出状況①



写真-4 A2 橋台背面土の流出状況②



写真-5 右岸 (A2) から左岸 (A1) を望む

連絡先

北見工業大学 社会環境工学科 准教授 宮森保紀

eメール： [miyamoya \(at\) mail.kitami-it.ac.jp](mailto:miyamoya(at)mail.kitami-it.ac.jp)